

国際原子力エネルギー協力フレームワーク 第9回執行委員会等会合の結果概要について

平成30年12月11日
内閣府
原子力政策担当室

平成30年11月12～15日、IFNEC(※1)第9回執行委員会ほか関連会合が、東京において開催された。日本から平井科学技術担当大臣、岡原子力委員会委員長及び佐藤内閣府大臣官房審議官が出席、結果概要を以下のとおり報告する。

(※1)International Framework for Nuclear Energy Cooperationの略
日本語名：国際原子力エネルギー協力フレームワーク

1. 開催日程・場所

- (1)平成30年11月12日終日：作業部会(基盤整備部会と需給国関係部会の共同開催)
- (2)平成30年11月13日終日：コンファランス(IFNECとNICE Future(※2)の共同開催)
- (3)平成30年11月14日午前：コンファランス(IFNECとNICE Future(※2)の共同開催)
- (4)平成30年11月14日午後：運営グループ(Steering Group)会合
- (5)平成30年11月15日終日：執行委員会(Executive Committee)
開催場所：経産省本館17階(第1特別会議室・国際会議室)
(※2)クリーンエネルギー大臣会合において設置されたもの。

2. 主要参加国・機関

(1) IFNEC 執行委員会

- ①メンバー国16か国(前回18か国)、オブザーバー5か国(前回2か国)
国際機関4機関(前回3機関)。
- ②主要国代表者
 - ・日本：平井卓也 科学技術担当大臣(開会挨拶)
岡 原子力委員会委員長(基調講演)
佐藤 内閣府大臣官房審議官(執行委員会議長)
 - ・アルゼンチン：ガダノ エネルギー鉱業省次官(SG議長)(※3)
 - ・米国：ジャヴォロヴスキー DOE 上席アドバイザー(SG副議長)
サラ・レノン DOE 次官補代理(NICE Future 代表)
 - ・露国：アルチシュク ロスアトム技術アカデミー副学長(SG副議長)
 - ・ケニア：ジュマ ケニア原子力発電委員会最高経営責任者(SG副議長)
(※3) Steering Group の略(日本語名：運営グループ)

(2) 関連会合

- ① 運営委員会会合
執行委員会への報告・提案事項の事前審議会合としての位置付けで、平井大臣、岡委員長を除き、執行委員会参加者とほぼ同様のメンバーが参加した。
- ② コンファランス
「クリーンエネルギーの中における原子力の役割」をテーマとして、IFNEC と NICE Future との間で共同開催、各国原子力行政機関・研究機関・国際機関等が出席した。

③作業部会

「安全と安全文化」をテーマとして、基盤整備部会とアドホック需給国関係部会との間で共同開催、各国原子力行政機関・研究機関・国際機関が出席した。

3. 会合結果

(1) 執行委員会会合

①議長国からの歓迎挨拶

内閣府科学技術担当大臣である平井大臣から、IFNEC 東京会合参加への謝意、IFNEC に対する今後の期待、日本の取組等を含む歓迎の辞があった。

②岡委員長による基調講演

原子力委員会岡委員長から、エネルギー・環境情勢、原子炉の発展状況等、多角的な視点で幅広い内容をテーマとする基調講演があった。

③出席国・国際機関による発表

原子力に係わる各国事情・国際機関の活動等の報告があり、日本は佐藤審議官より我が国の原子力事情・原子力政策の進展・今後の取組等について発表があった。

④副議長新旧交代紹介

運用規約の改正により、副議長が5名態勢となり、新しく選出された副議長の紹介・挨拶があった。

- ・ 日本：佐藤文一（内閣府大臣官房審議官）
- ・ 米国：スザンヌ・ジャヴォロヴスキー（DOE 上席アドバイザー）
- ・ 露国：ウラジミール・アルチシュク（ロスアトム技術アカデミー副学長）
- ・ ケニヤ：コリンズ・ジュマ（ケニヤ原子力発電委員会最高経営責任者）
- ・ 中国：ゴウフェン（国家能源局局長）留任（会合欠席）

⑤作業部会からの報告

各作業部会より過去の活動報告及び今後の活動計画が口頭報告された。

- ・ 基盤整備作業部会（ブカート共同議長報告）
- ・ 燃料供給サービス作業部会（タイソン共同議長報告）
- ・ アドホック需給国関係会合（佐藤共同議長報告）

⑥審議・承認事項

- ・ 運営グループよりガバナンス（運用規約）改正案が提出され、承認された。
- ・ 執行委員会は、需給国関係特別部会の2017年における「サプライチェーンとローカライゼーション」テーマとしたコンファランスの開催、2018年における同コンファランスの結果報告の出版に係わる成果その他を評価し、当特別部会を常設の作業部会として設置することを認めた。
- ・ 次期執行委員会の開催国候補として米国（2019年11月下半期）、需給国関係会合の開催国として中国（2019年上半期）が承認された。
- ・ 運営グループにより2018年IFNEC共同声明案が提出され採択された。

(2) 関連会合

①運営グループ会合

・ 議長からの挨拶

ガダノ運営グループにより、IFNEC 東京会合参加に対する謝意、作業部会・コンファランスの活動成果、今後のIFNECの活動予定について報告があった。

- ・副議長選出
運用規約の改正により副議長が5名態勢となり、現行の副議長2名留任・1名辞任の承認、新副議長候補3名の紹介・選出があった。
- ・作業部会からの報告
各作業部会より過去の活動報告及び今後の活動計画が口頭報告された。
基盤整備作業部会：ブカート共同議長報告
燃料供給サービス作業部会：タイソン共同議長報告
アドホック需給国関係会合：佐藤共同議長報告
- ・審議事項
事務局からの報告：事務局の活動報告・次期活動予定、予算執行状況（2017年10月～2018年10月）について報告があり、承認された。
ガバナンス（運用規約）改正案が提出され、審議された。
2019年11月の執行委員会の開催国候補として米国、需給国関係会合の開催国として中国（自薦）が提案された。
2018年IFNEC共同声明案が提出され、次期開催地に関する文言等の調整があった。

② コンファランス

IFNECとNICE Futureの共同開催により、11月13日から14日午前までの2日間にわたって開催された。「クリーンエネルギーの中における原子力の役割」をテーマに、予想人員を上回る130人の参加を得て、電力市場・技術革新・ファイナンス等に関して幅広く活発な議論が行われた。

③ 作業部会

「安全と安全文化」を共通のテーマとして、基盤整備部会と需給国関係部会によりワークショップの共同開催が実施され、安全文化形成上、重要な役割を担う規制機関及び訓練の必要性が議論されるとともに、同作業部会の次期開催国を中国とする提案があった。

4. 今後の活動予定

- ・次期執行委員会の開催国として、米国が候補地となった（2019年下半年期）。
- ・次期需給国関係会合の開催地として、中国の自薦が承認された（2019年上半年期）。

5. 参考事項

(1) IFNEC 執行委員会会合の出席国

- ①メンバー国：アルゼンチン、オーストラリア、バーレーン、中国、フランス、ドイツ、ガーナ、日本、ヨルダン、ケニヤ、韓国、ポーランド、ルーマニア、ロシア連邦、アメリカ合衆国、イギリス（計16国）
- ②オブザーバー国：エジプト、フィリピン、シンガポール、スロヴァキア、スイス（計5国）
- ③国際機関：Euratom（欧州原子力共同体）、GIF（第4世代原子力システムに関する国際フォーラム）、OECD/NEA（経済協力開発機構／原子力機関）、IAEA（国際原子力機関）（計4機関）

(2) 添付資料

- 添付1：第9回執行委員会共同声明（英文）
- 添付2：第9回執行委員会共同声明（仮訳）